

# 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

## 【PLAN】

### 事務事業の目的と成果

事業名	災害対策事業				事業期間 第6期総合計画 の位置付け	— 年度 ~ — 年度				所管課係	市長公室課防災対策係			
	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外		1-6-1	他に関連する 基本事業	1-6-2	—					
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画 の位置付け	1-6-1	他に関連する 基本事業	1-6-2	—	—	—	—	所管課係	市長公室課防災対策係
目的 (何のために実施する のか)	災害からの被害を最小限に食い止めるための防災意識の啓蒙を図り、市民の生命及び財産を守り、普段から自然災害に備える。 また、武力攻撃等において、住民の生命、身体及び財産を保護するため、国民の保護のための措置を的確かつ迅速に実施するための対策について定める。						手段 (どのような方法で 実現するのか)		広報紙等での自主防災組織結成の呼びかけや、地域防災訓練の実施、ハザードマップ全戸配布により住民の防災に対する意識を高める。 また、非常時には、市のホームページや防災無線により災害情報を迅速に伝達できる体制を構築する。					
対象 (誰・何を対象として いるのか)	全市民						成果 (どのような効果が 得られるのか)		防災意識の向上と迅速な災害情報の伝達による被災の最小限化及び災害応急対応の迅速化。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	いつ発生するか分からない災害に備え、啓発を行っているが、東日本大震災以降、市民の防災に対する意識が高まってきており、これまで以上の対策が求められている。 (平成25年度の機構変更に伴い災害対策事業を庶務係から防災対策係へ所管替えした。)													

## 【DO】

### 実績

(単位：円)

入 れ た 事 業 費 の 推 移	国 費 道 費 地 方 債 そ の 他	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計 計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
費 の 推 移	国費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額		500,000		500,000				0					0	500,000
		実績額		500,000		500,000				0					0	500,000
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	161,000	590,000	161,000	912,000	171,000	171,000	1,032,000	1,374,000	948,000	61,000	61,000	61,000	1,131,000	3,417,000
		予算計上額	161,000	573,000	166,000	900,000	171,000	156,000	100,000	427,000	1,051,000	115,000	103,000	204,000	1,473,000	2,800,000
		実績額	106,665	524,668	141,535	772,868	69,935	81,763	10,136	161,834	946,492	32,529	26,122	5,390	1,010,533	1,945,235
事業費合計	計画額	161,000	590,000	161,000	912,000	171,000	171,000	1,032,000	1,374,000	948,000	61,000	61,000	61,000	1,131,000	3,417,000	
	予算計上額	161,000	1,073,000	166,000	1,400,000	171,000	156,000	100,000	427,000	1,051,000	115,000	103,000	204,000	1,473,000	3,300,000	
	実績額	106,665	1,024,668	141,535	1,272,868	69,935	81,763	10,136	161,834	946,492	32,529	26,122	5,390	1,010,533	2,445,235	
事業費 の 推 移	事業費予算の内容	委員報酬・旅費 46千円 電波利用料 10千円 地域防災訓練 105千円	委員報酬・旅費 46千円 電波利用料 10千円 地域防災訓練 105千円 ハザードマップ 912千円	委員報酬・旅費 51千円 電波利用料 10千円 地域防災訓練 105千円		委員報酬・旅費 76千円 地域防災訓練 95千円	委員報酬・旅費 71千円 地域防災訓練 85千円	委員報酬・旅費 60千円 地域防災訓練 40千円		委員報酬・旅費 63千円 地域防災訓練 40千円 ハザードマップ 948千円	委員報酬・旅費 75千円 地域防災訓練 40千円	委員報酬・旅費 63千円 地域防災訓練 40千円	委員報酬・旅費 72千円 冬季避難所宿泊 訓練132千円			
	前年度予算との比較 (増減理由)	防災訓練での消耗品等の減により前年度比減	ハザードマップ作成による増	防災会議委員の増加のため		旅費の増加のため	旅費と地域防災訓練経費の減のため	旅費と地域防災訓練経費の減のため		旅費とハザードマップ更新による増	旅費の増加のため	旅費の減のため	冬季避難所宿泊訓練の実施と旅費の増加のため			
	実績との比較 (増減理由)	防災会議未開催による減	防災会議未開催による減。ハザードマップ見直しによる減。	防災会議委員の委員報酬辞退による減。		書面による防災会議を開催したため	防災会議を開催していないため	防災会議を開催していないため		防災会議未開催による減。ハザードマップ見直しによる減。	防災会議委員の委員報酬辞退による減	書面による防災会議を開催したため	新型コロナウイルス感染症の影響で訓練を中止したため			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：防災訓練回数	指標の求め方：防災訓練回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：訓練参加者数	指標の求め方：訓練参加者数
活動指標 2	指標名：	指標の求め方：
成果指標 2	指標名：自主防災組織数	指標の求め方：自主防災組織延数

指標	活動指標 1 (単位/回/延)	計画値	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		実績値	3	4	5	6	7	8	9	10	11	11
	成果指標 1 (単位/人/延)	計画値	350	450	550	625	700	800	900	1,000	1,100	1,200
		実績値	370	483	630	813	947	1,072	1,220	1,335	1,459	1,459
活動指標 2 (単位/ )	計画値											
	実績値											
成果指標 2 (単位/町内会)	計画値	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
	実績値	5	6	6	7	8	8	11	11	13	13	

事業	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている				上がっている				上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている				少し上がっている				少し上がっている
	総合評価				良好である				良好である				良好である

事業	評価内容	総合評価の判断理由	自己分析：訓練対象町内会に対する参加要請を地道に行った結果、訓練参加者数が増加し、より多くの市民の防災に対する意識が高まっている。	自己分析：訓練対象町内会に対する参加要請を丁寧に行い、町内会長さんの積極的な会員さんへの働きかけの結果、訓練参加者数が増加した。関連協力機関も今年度より自衛隊滝川駐屯地の協力が始まり、市民の更なる防災意識の高揚につながっている。	自己分析：地震を想定した地域防災訓練は5年連続で避難所ごとに行っているが、対象町内会以外の市民の参加者が少数である。訓練内容のマンネリ化を打破するよう内容に吟味し、次年度につなげ更なる防災意識の高揚に繋げていきたい。また、防災訓練時にも自主防災組織のPR活動を行い組織の増加に努める。	判断理由：災害対策事業は災害から被害を最小限にするために行っており、訓練参加者数も増加傾向にあり市民の防災意識の高揚につながっていると考えられ良好と判断した。	自己分析：地震を想定した地域防災訓練は5年連続で避難所ごとに行っていたが、今回初めて水害時に地域交流センターゆうを避難所とする町内会等を含め水害を想定した訓練を実施し、訓練参加人数の数も昨年より上昇した。また、防災訓練時にも自主防災組織のPR活動を消防と連携して行った結果、1つの新たな自主防災組織が誕生した。	自己分析：総合体育館を会場に地震を想定した訓練を行ったが、日程調整がうまくいかず、陸上自衛隊滝川駐屯地の参加を得られなかった。しかし、防災訓練時に自主防災組織のPR活動を消防署と連携して行った結果、1つの新たな自主防災組織が誕生した。	自己分析：北光小学校を会場に地震を想定した地域防災訓練を行ったが、町内会との連携調整がうまくいかず参加者数は減少した。自主防災組織の数は増えなかったものの防災訓練時のPR活動により次年度に複数の自主防災組織が誕生する見込みとなった。	判断理由：災害対策事業は、災害から被害を最小限にするために行っており、訓練参加者数も増加傾向にあり市民の防災意識の高揚につながっていると考えられ良好と判断した。	自己分析：豊沼小学校を会場に地震を想定した地域防災訓練を行った。昨年度と比べ参加者数は増えている。自主防災組織については消防と連携してPR活動を行った結果、3つの新たな自主防災組織が誕生した。	自己分析：海洋センターを会場に地震を想定した地域防災訓練を行った。昨年度と比べ参加者数は増えている。自主防災組織については消防と連携してPR活動を行った結果、2つの新たな自主防災組織が誕生した。	自己分析：公民館を会場に地震を想定した地域防災訓練を行った。昨年度と比べ参加者数は増えている。自主防災組織については消防と連携してPR活動を行った結果、2つの新たな自主防災組織が誕生した。	自己分析：新型コロナウイルス感染症の影響により冬季避難所宿泊訓練が開催できなかった。自主防災組織については消防と連携してPR活動を行った結果、増加には至らなかった。	判断理由：災害対策事業は、災害から被害を最小限にするために行っている。成果指標である自主防災組織数も増加傾向にあり市民の防災意識の高揚につながっていると考えられ良好と判断した。
		今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続				現状のまま継続	

方向性の判断理由	H25：地域防災訓練は現状のまま継続いたしますが、従来訓練内に行っていた職員向けの「災害対策本部訓練」を見直し、地域防災訓練実施日は別な日に設定し、「災害対策本部訓練」の充実を図りたい。	H28：災害時の防災関係業務、国民保護などの危機対策に精通した人材として、平成28年度から退職自衛官を採用し、災害発生時における陸上自衛隊滝川駐屯地との連携、防災訓練、防災啓発など防災業務全般にわたり携わってもらい、当市の防災対策の強化を図ってまいりたい。	H30：全国的に多発する大規模自然災害を経て、法改正が進み、防災に対する考え方も変化している。全国的な最新の動向を反映させつつ、訓練内容の見直しや、市民ニーズにあった訓練内容とするなどマンネリ化しないような充実化を図りたい。
----------	---	--	--

# 第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

## 【PLAN】

### 事務事業の目的と成果

事業名	防災備蓄品整備事業				事業期間	平成26年度～平成32年度							所管課係	市長公室課防災対策係	
事業性質区分	新規・継続	新規	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	1-6-2	他に関連する基本事業	-	-	-	-	-	-	-	
目的 (何のために実施するのか)	災害時における市民生活に必要な物資を確保します。							手段 (どのような方法で実現するのか)	備蓄計画に基づき食料品や資機材等の物資を調達し、保管します。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	災害時における避難市民							成果 (どのような効果が得られるのか)	計画的な備蓄品の整備を行うことで、災害時に市民生活に必要な物資を迅速かつ安定して供給することができる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯（行単内容含む）	平成23年の東日本大震災より、市町村が保有する備蓄品に対して市民の関心が高くなっており、全国的にも備蓄品整備が進んでいる。平成27年度で当初計画していた備蓄品の整備は完了したが、保存期限切れの食料の補充と簡易トイレのストックが新たに必要となったため、第3次実施4カ年計画として実施する。														

## 【DO】

### 実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 合計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入 された 事業費 の 推移	国費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額				0			0					0	0	
		実績額				0			0				3,267,430	3,267,430	3,267,430	
	道費	計画額				0			0						0	0
		予算計上額				0			0						0	0
		実績額				0	1,700,000		1,700,000						1,700,000	0
	地方債	計画額				0			0						0	0
		予算計上額				0			0						0	0
		実績額				0			0						0	0
	その他	計画額				0			0						0	0
		予算計上額				0			0						0	0
		実績額				0			0						0	0
一般財源	計画額				0	3,755,000	609,000		4,364,000	1,046,000	100,000	100,000	100,000	1,346,000	5,710,000	
	予算計上額				0	3,755,000	746,000		4,501,000	1,013,000	564,000	3,151,000	400,000	5,128,000	9,629,000	
	実績額				0	1,880,356	607,560	95,360	2,583,276	989,496	840,326	2,416,542	818,722	5,065,086	7,648,362	
事業費合計	計画額	0	0	0	0	3,755,000	609,000	0	4,364,000	1,046,000	100,000	100,000	100,000	1,346,000	5,710,000	
	予算計上額	0	0	0	0	3,755,000	746,000	0	4,501,000	1,013,000	564,000	3,151,000	400,000	5,128,000	9,629,000	
	実績額	0	0	0	0	3,580,356	607,560	95,360	4,283,276	989,496	840,326	2,416,542	4,086,152	8,332,516	12,615,792	
事業費予算の内容					備品購入費（食料、水、発電機、毛布、寝マット、コードリール、インバーター等）	備品購入費（食料、水、発電機、コードリール、インバーター等）			備品購入費（食料、簡易トイレ）	備品購入費（食料、水）	備品購入費（食料、水、段ボールベッド等）	備品購入費（食料、水、ブルーシート）				
前年度予算との比較 (増減理由)										保存期限切れの食糧の補充、簡易トイレの購入による増	備蓄品購入品数の減による	備蓄品購入品数の増による	備蓄品購入品数の減による			
実績との比較 (増減理由)						入札減	見積り合わせによる減。		熊本地震の際に提供した支援物資の補充による増。	見積り合わせによる減。	胆振東部地震の際に市民に提供した物資の補充による増	入札減	新型コロナウイルス感染症対応のための備蓄品整備による増			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：備蓄品の調達率				指標の求め方：計画に対する調達数を百分率で表す									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：災害時における備蓄品供給回数				指標の求め方：災害時の供給回数									
指標	活動指標 1 (単位/ )	計画値				100%	100%	100%		100%	100%	100%	100%		
		実績値				100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
指標	成果指標 1 (単位/ )	計画値				1	1	1		1	1	1	1		
		実績値				0	0	1		0	1	0	0		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)									達成されている					達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)									上がっている					上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)									上がっている					上がっている
	総合評価									極めて良好である					良好である
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析： 備蓄品の調達率が計画値に近づきつつあり、計画的に購入が実行されている。幸いにして備蓄品が必要となるような災害が発生していない、供給実績は無い。	自己分析： 備蓄品の調達が計画どおり達成された。幸いにして備蓄品が必要となるような災害が発生していない、供給実績は無い。	自己分析： 8月20日からの大雨により35年ぶりに避難勧告が発令され避難所を設営した。これに伴い、毛布やアルミマット、備蓄用パンなどを供給した。幸いにして人的被害はなく備蓄量も充分であったため問題なく対応できた。	判断理由： 備蓄品の調達が計画どおり達成され良好と判断した。	自己分析： 備蓄品の調達が計画どおり達成された。幸いにして備蓄品が必要となるような災害が発生していない、供給実績は無い。	自己分析： 9月6日、胆振東部を震源とする地震で道内全域が停電した。停電が長引くおそれがあったため避難所を設営した。これに伴い、備蓄用のパン、アルファ米、保存水などを供給した。幸いにして人的被害はなく備蓄量も充分であったため問題なく対応できた。	自己分析： 備蓄品の調達が計画どおり達成された。幸いにして備蓄品が必要となるような災害が発生していない、供給実績は無い。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営のためにマスクや消毒液、段ボールベッド、ワンタッチパーテーションなどを新たに整備する必要が生じた。幸いにして備蓄品が必要となるような災害が発生していない、供給実績は無い。	判断理由： 備蓄品の調達は計画どおり達成されており、災害にも対応できているため良好と判断した。
今後の方向性									現状のまま継続					現状のまま継続	
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)		H25：				H28： 計画どおり備蓄品を確保することができ、今後は保存期限を迎える備蓄品の更新や他地域の災害状況に応じた新たな備蓄品の調達について進めてまいりたい。				H30： 計画どおり備蓄品を確保することができている。今後は保存期限を迎える備蓄品の更新や、将来的に必要となる備蓄品を随時検討して、調達について進めてまいりたい。					